

平成 25 年度座談会「町長と語ろうまちづくり」（共和地区）

開催日時	平成 25 年 9 月 24 日（火）午後 7 時から午後 9 時	天気 晴れ
場所	共和トレーニングセンター	
町民参加者	男 17 人 女 5 人（40 代以下 1 人、50 代 0 人、60 代以上 21 人）	
町出席者	町長、副町長、教育長、企画財政課長、都市整備課長、上下水道課長、環境農林課長、事務局 2 人	

出席者から出された主な意見や提案

- 第 7 分団の消防団員は勤めに行っている人が多く、有事の際の活動がなかなか難しいという状況なので、消防団の OB が主となった自主消防隊を作ろうとしている。
- 共和地区は、災害時には道路が寸断されて孤立してしまう地域なので、情報網に課題がある。パンザマストで放送した情報を個別受信機でも流せるシステムが作れないか。
- 共和地区では、10 年計画で森林を整備しようとしているが、10 年後に果たして森林整備を支えていく者が共和にどれだけいるかということを心配している。地域では、独身で結婚されていない方、結婚はしても子どものいない方、あるいは子どもが共和以外に出て生活している方などがいられるが、10 年後は若い方が戻ってきて支えないと実行できない。
- 若い人がいるうちは自助、共助で頑張らなくてはならないと思うが、もう公助の時期に来ていると思う。
- 共和地区は、救急車が入れないところがほとんどで、古宿地区では地区内の下の方まで救急車が入れずに、急病人を台車に乗せて上まで押し上げて運んだこともある。ぜひ、主要道だけでなく、地区内の道路も整備をお願いしたい。
- 大野山のハイキングコースについて、最近ハイカーから道標があちらこちらにあってわかりづらいという話を聞く。わかりやすく腐らないものに変えるように検討していただきたい。
- 今の救急車はいろいろ装備をしているので大きいため、軽自動車サイズの小型救急車が地区内に入って搬送し、広いところで大きな救急車に移すような対応はできないのか。
- 生産性のある、お金になる山づくりを目指して進み、ここで働く環境づくりをすればこの地で生活できるようになる。資源をどう活かすのかが山北の生きる道だと思う。

○アカネトラカミキリという虫により杉や檜が被害を受け、価値のない山が大変多くなって困っているが、切った木がいくらかでもお金になれば、木を切ることもままならない。

○高台病院から大口までは開成町の管轄とは思いますが、土手にずっと河津桜を植えてしまっただろうか。そして大口から丸山まででも河津桜を植えて、山北駅からお客さんを帰すということができないものか。

○JR御殿場線はICカードの精算ができず苦労した。カードの時代に山北は近代化から取り残されている。IC乗車券の精算をする機械を置いてくれれば、もっと便利で町が開かれると思う。

○県内で、大野山の大パノラマに勝る景観の山はない。あの眺望は他にないということを町ぐるみで県に言うくらいのことをしてもいいのではないか。